



秋田県畜産試験場 飼料・環境部  
佐藤 寛子



## ○担当分野の紹介

秋田県畜産試験場では、飼料・環境部、大家畜部、中小家畜部、家畜繁殖部と4つの部門に分かれて試験研究が行われ、畜産環境保全に関しては、飼料・環境部の経営・環境保全が担当しています。

現在、主に取り組んでいる試験研究は、家畜排泄物の用途拡大、広域流通化、ハンドリングの改善及び土壌への適正施用などを目的に、成分調整ペレットや移植用ポットなどの農業資材の開発と利用技術の検討です。また、同じ県の機関である木材産業課からの依頼により、木炭・木酢液を使用した堆肥化試験も行っています。

試験研究以外にも、県内にある堆肥製造施設を紹介した「堆肥センターマップ」を作成するために、県内各地の堆肥製造施設について調査および分析を行うこともあります。

## ○連携の大切さ

現在取り組んでいる試験研究では、畜産試験場で作成したペレット堆肥などの施用方法の検討について、農業試験場と共同研究を行っています。また、前述しましたが、林業分野である木材産業課との連携により、木炭の需要拡大を目的とした試験研究も行っているところです。

このように、私たちは畜産分野以外との連携も大切にし仕事を進めています。これも、「畜産環境保全」の特徴の一つなのでしょうね。

## ○現場の難しさ

畜産環境保全という仕事は、研究課題もその解決方法も現場から出てくるものだと思います。

特に、「堆肥センターマップ」を作成するときは、県内各地の堆肥製造施設を調査して歩いたのですが、当時の私は勉強のつもりで調査に行っていました。しかし、施設の方々の悩みは多く、自分ももっと勉強を重ねてこの方々の役に立たなければと思ったものです。

それから、数年経った今でも現場の方々から悩みが多く寄せられています。この間も、できたばかりの堆肥センターから「堆肥は出来たようだが、本当にこれで良いのか全く自信がない。」という電話もありました。

## ○今後の抱負

この「畜産環境保全」という仕事は、関われば関わるほどに問題は多く出てきます。しかし、それをひとつひとつ解決していくことは、本当に「面白い」ことだという話も聞いたことがあります。現場の方々も、たくさん知識や技術を身につけていますが、真面目に取り組んでいる人ほど、悩みは更に増えていくようです。

私も、現場の悩みに一つでも多く答えられるように、勉強を重ねていかなければと考えています。そして、この仕事を心から「面白い」と感じられるようになりたいです。